

ビデオセッション1

「早期胃癌に対する内視鏡診断と治療の現状と限界」

司会 八尾 隆史（順天堂大学大学院医学研究科人体病理病態学）

小野 裕之（静岡県立静岡がんセンター内視鏡科）

除菌後や未感染胃に発生する早期胃癌の内視鏡診断には、従来の診断学とは異なる、新たな手法や基準が必要となってきた。除菌後胃癌しかり、胃底腺型やラズベリー型などの胃型腫瘍しかりであり、粘液形質や発生と分化のメカニズムなどの病理診断を踏まえて内視鏡診断を構築してゆく必要がある。また治療においても従来と異なる適応や手技の改善が必要とされる可能性がでてきた。変わりゆく早期胃癌の診断と治療について、現状と限界について議論したい。